

韓国における校務支援システムに関する一考察 : S 初等学校教員への聞き取り調査から

松本, 真実
九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻 : 博士課程

<https://doi.org/10.15017/7386772>

出版情報 : 国際教育文化研究. 15, pp.239-250, 2015-10-28. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



韓国における校務支援システムに関する一考察

～ S 初等学校教員への聞き取り調査から～

松本 真実

はじめに

本稿の目的は、韓国における校務支援システムの変遷や、現在全国で運用されている校務支援システムである NEIS について明らかにするとともに、初等学校教員への聞き取り調査から教員の業務負担や校務支援システムの効果と課題及び限界を見出すことである。

日本の教育現場においては教員の多忙化が深刻化し、業務軽減のための一つの手段として、校務支援システムの導入が喫緊の課題となっている。一方で、韓国の校務情報化に関する取り組みを見てみると、日本よりも早い段階から行われており、1999 年 4 月に設立された、「韓国教育学術情報院」(Korea Education and Research Information Service. 以下、KERIS)によって強力に進められている。KERIS は、教育部(日本の文部科学省にあたる。)の方針に沿い、教育及び学術研究の情報化を通して国家教育の発展に寄与することを使命としている¹。教育部管轄の政府組織として教育の情報化と関連した政策の考案と執行の権限を有しており、「デジタル教科書推進事業」や「スマート教育²推進戦略」など様々な政策を打ち出してきた。2002 年には以前の校務支援システムである「学校行政管理システム」(School Information Management System. 以下、SIMS)をアップグレードした「全国教育行政情報システム」(National Education Information System. 以下、NEIS)³の開発を開始し、2006 年には全国の初・中・高等学校での活用が義務化、法律上も 2012 年 3 月及び翌年 3 月に初・中等教育法第 30 条が改定されシステムによって処理を行うことが義務化されている。韓国における教員の勤務状況については 1982 年に行われた調査⁴によるとすべての教育段階で週当たりの総勤務時間は 50 時間を超えており、当時の韓国における公務員の法定勤務時間の 44 時間と比べ超過勤務となっていた。また、同調査の「勤務負担の要因」を見てみると、すべての教育段階において雑務の一種である当直勤務や公文書処理が上位に挙げられていた。しかし、2013 年の国際調査⁵の結果によると一週間の勤務時間は加盟国平均(38.3 時間)よりも短くなっており、業務の効率化を達成したという仮説が立つ。

以上のように校務情報化に関して先進的な取り組みを行っていること、そして 1982 年当時、超過勤務であった韓国の学校現場が 2013 年には改善されていることから、韓国での校務情報化の取り組み、特に校務支援システムについて研究することで、教員の多忙化

が深刻化し、校務情報化について模索している日本の教育現場に解決の糸口をもたらすことが出来ると考える。

本稿ではまず、先行研究の検討や研究方法について述べた後、韓国における校務支援システムの変遷や現在韓国で使われている校務支援システムである NEIS の目的や機能について記述する。さらに、筆者が行った韓国の初等学校教員への聞き取り調査の逐語記録を分析及び考察することで、校務支援システムがどのように運用され、初等学校教員にどのように捉えられているのか、効果や課題、展望を見出したい。

1. 先行研究の検討と研究の意義

韓国の校務情報化に関する日本の先行研究や研究調査の多くは日本教育工学会(Japan Association for Promotion of Educational Technology. 以下、JAPET)によって行われている。2010 年の文部科学省委託事業における調査報告書⁶では、韓国における校務情報化の進捗状況として約 30 ページにわたって NEIS の機能、予算及び組織体系、韓国の教育・文化等について詳細にまとめられている。また、その他にも加藤ら(2010)による NEIS の進展プロセスに関する研究⁷等があるが、韓国の教員の勤務実態や、NEIS 導入前後の業務量について言及したものが見られない。

一方、韓国における先行研究については、NEIS の問題点や課題に関する研究ではシステム上の問題や、個人情報保護の問題を取り挙げたもの⁸が多い。NEIS の業務に対する効果測定をしたもの⁹もいくつかみられるが、質的調査法に基づく、業務時間と NEIS の関係や NEIS の効果及び課題を明らかにしている研究は少ない。キム・ジョンギョム(2012)¹⁰は教員が NEIS を使う上での難しさや対処方法を質的調査し、NEIS の問題点や教師の NEIS に対する受容態度を分類しているが、NEIS の効果や勤務時間に関しては言及していない。また、NEIS は教員からの要望などにより更新され続けているが、2010 年以前に行われた研究が多く、現在の NEIS が抱える課題や効果を把握することが困難である。以上の状況から、現在の NEIS に関して、韓国の教員への聞き取り調査及び逐語記録分析による NEIS や教員業務の課題の抽出は意義があるといえる。

2. 研究方法

本研究は、政策文書や資料、新聞などの分析及び教員への聞き取り調査をもとに行なう。韓国における教員の勤務実態の調査及び先行研究の分析、初等学校教員への聞き取り調査の逐語記録分析により、NEIS 校務業務サービスを中心とした校務情報化の動向とその効果、課題等を明らかにする。聞き取り調査の対象者はソウル市内の初等学校に勤務または勤務経験のある教員とする。初等学校の教員を対象とするのは、日韓比較する上で、教員の業務負担のうち「部活動」の要因を軽減させるためである。

尚、教員への聞き取り調査は半構造化面接法を用いて行ったが、調査の手続き及びインタビューの属性、質問項目の概略は次項の通りである。

2-1. 調査の手続きとインタビュアーの属性

筆者は、2014年3月より1年間、ソウル大学校師範大学に交換留学し、教育行政専攻に所属させていただいたが、教育行政学や韓国での調査の手続きについて学びながら先行研究の分析及び現地調査を行った。韓国トップの大学であるソウル大学校が所蔵する豊富な文献に触れ、課題に対する理解を深めることができたのは勿論、初等学校の現職教員へのインタビューの機会にも恵まれた。ご協力いただいたインタビュアーの属性は以下の通りである。

氏名	性別	年齢	所属	教員経歴 年数	訪問 回数
I.S	男	36	小中一貫校への勤務経験や、中国の学校におけるコンピュータ教育の経験もある。2015年現在は大学院に在籍している。	6年	1
J.S	女	30	NEISが義務化された後教員となる。校務分掌では「放課後学校」 ¹¹ を担当。派遣で大学院に在籍している。	6年	1
J.U	女	43	S初等学校現職教員。SIMSの担当経験有り。	16年	1
H.J	女	40	S初等学校現職教員。現NEIS担当者。前任校でNEISの担当をしていたために、S初等学校で産休に入った先生の代りにNEISの担当となった。	13年	1
R.J	男	63	H初等学校元校長。現在は地域の教育に関する講演会で登壇する等、教育活動を行っている。	40年	2

本稿では上記インタビュアーの中でも、主に、S初等学校の現職教員であるJ.U氏とH.J氏に行った聞き取り調査をもとに、逐語記録の分析・考察を行う。

2-2. 質問項目の概要

①業務による忙しさについて

忙しい時期、退勤時間、持ち帰る仕事の量、忙しいとき犠牲となっていたもの(睡眠時間、家族との時間)等

②SIMS、NEISについて

システムの操作方法習得について、NEISによって楽になったこと、NEIS導入前後の変化、よく使っている機能、NEISについて、改善したらいいと思う点等

③サポート体制について

NEISの操作方法が分からない時のサポート、業務の助けとなっている人物、NEISの研修について、教員養成課程でのNEIS教育について、対応が難しい児童の指導に関するサポート等

前項のインタビュー項目の中でも、主に、NEIS 導入前後の通勤時間や、NEIS によって楽になったこと、NEIS について改善したらいいと思う点、業務の助けとなっている人物等について深くお話を伺うことが出来た。よって、本稿の逐語記録の分析で扱う内容もこれらを中心とする。

3. 韓国における校務支援システム

3-1. SIMS 誕生と NEIS への移行

韓国においては NEIS 以前の校務支援システムとして SIMS が存在することを先述したが、この節では、KERIS ホームページの「NEIS の概要」¹²にある情報を基に、韓国における校務支援システムの変遷を整理することとする。以下の年表は同ホームページ上にあるものを筆者が翻訳したものである。

1997 年 SIMS の開発及び普及

2001 年 全国の初・中等学校における IT インフラの構築完了

2001 年 2 段階教育情報化発展方案樹立

2002 年 NEIS 一般行政(22 領域)サービスの開始

2003 年 NEIS 校務業務(5 領域)サービスの開始

2004 年 オンライン大学入学選考サービスの開始

2005 年 Home-Edu サービスの開始

2006 年 校務学士等、3 領域の校務業務システム、保護者サービスの開通

2007 年 エデュファインサービスの開始

2010 年 次世代 NEIS 構築基本計画の樹立

2010 年~2011 年 次世代 NEIS 業務プログラム改編及び運営インフラ造成

2011 年 次世代 NEIS 開通

2012 年 学生サービス開通、モバイルアプリ試験運営

2014 年 対国民サービス改編

(下線は筆者)

以上のように 1997 年に開発及び普及された SIMS は 2002 年に NEIS へと移行され、その後の度重なる更新過程において、校務業務サービス以外にも、保護者が自宅で子どもの成績を確認できる機能を有する保護者サービス等、様々なサービスを取り込みながら発展してきた。また、2010 年より次世代 NEIS に関する議論が始まり、2011 年には開通に至っており、NEIS は今もなお更新され、進化し続けている。

SIMS から NEIS に移行した背景として、日本教育工学会(2010)によると、2002 年当時 85%の普及率¹³であった SIMS は、ハードウェアの老朽化やアプリケーション管理の煩雑性、セキュリティの脆弱性の問題を理由に¹⁴NEIS に移行されたというが、日本においては、SIMS に関する研究は行われていないのは勿論、日本語による NEIS 研究で SIMS についても記述しているのは、管見の限り日本教育工学会(2010)のみであ

るため、6 年余り運用されていた SIMS が NEIS に移行されることになったのは上記 3 つの理由だけかどうかは今後更に検討していく必要がある。SIMS の問題点は何であったのか、NEIS に移行される前後の社会的背景についても今後研究する中で明らかにしていきたい。

3-2. NEIS の目的と機能

①NEIS の目的

まず、NEIS の目的については KERIS ホームページ¹⁵には以下のように書かれている。

・業務処理方式の改編を通じた教員の業務軽減

- ・児童生徒の学校生活情報の提供を通じた学校と家庭の役割の向上
- ・国民のための、速くて便利な民顔(各種行政手続き)サービスの提供

・教育行政業務の効率的な処理と透明性の向上

- ・電子的 One-Stop サービスの提供を通じた透明で便利な大学入試の支援
- ・国家競争力の向上のための知識情報社会型電子政府の確立

(下線は筆者)

②NEIS の機能

次に、機能については JAPET¹⁶によると 2010 年現在、以下のようになっている。

・一般行政サービス

教員人事、職員人事、給与、緊急事態、法人、設備、資産、供給・資材、エデュファイン(会計)、学校会計、生涯教育、入学資格試験、教育統計、監査、広報、システム管理

・校務業務サービス

業務承認管理、経営支援、学校情報、学籍、学校生活、成績、学生簿、保健体育、学生・保護者サービス、進路指導、入学、保健

・国民サービス

Home-Edu(在宅教育電子申請)、保護者サービス、初・中等教育情報公示

現在明らかとなっている NEIS の機能は以上の通りであるが、NEIS は毎年のように更新され、2011 年は次世代 NEIS の開通及び更なる更新が行われているため韓国語による文献にも多く当たる必要があると考える。特に、2006 年より全国のほとんどの学校で行われている「放課後学校」についても、2014 年現在では NEIS を使ってある程度処理できるということが、後述する聞き取り調査により明らかになっているため、NEIS の機能についてはさらに文献調査を行うとともに、必要であれば教育部や教育庁等の教育機関にも調査を依頼することが必要であると考え。また、NEIS には上記のように校務業務サービスというサービスがあるが、NEIS の目的でも触れたように、NEIS が導入された目的の一つとして「教員の業務軽減」や「教育行政業務の効率的な処理」が掲げられているため、NEIS の校務業務サービスだけを校務支援システムと理

解するのではなく、本稿では NEIS 全体を校務支援システムと定義することとする。

4. 逐語記録分析による校務支援システムの効果と課題

「2. 研究方法」において先述したように本章では S 初等学校現職教員である J.U 氏と H.J 氏に行ったインタビューを中心に、逐語記録の分析・考察を行う。逐語記録の引用にあたっては、便宜的に J.U 氏を A、H.J 氏を B、筆者を筆と表すこととする。

4-1. NEIS に関する肯定的な意見

まず、NEIS によって業務負担が軽減されたことはインタビューアーのなかでもほとんどの教員が認めており、S 初等学校の現職教員からは NEIS で楽になったこととして「成績処理」と「決済手続きの効率化」が挙げられ、この 2 点について以下のような声を得られた。

①成績処理について

B: 私は成績を処理すること。成績処理は今、NEIS でするんだけど、その前は、NEIS でする前、手書きでしたんですよ。手で。その時は一旦、手で書くことはコンピュータよりかなり遅かったり、時間が多くかかって、その時は家に持って帰ってもやっ
し。

筆: では、学期末の度に。

B: ええ、学期末の度に。

(中略)

B: 今は NEIS プログラムが導入されてからはとても、かなり、楽になりました。短く
なりました。処理する時間が。

S 初等学校の現職教員 2 名はどちらも 40 代であるが、大学生の頃に既にコンピュータを使った授業の経験や、課題をコンピュータや Microsoft 社の Word を用いて行っていて、コンピュータに慣れた世代であるとのことであった。そのこともあってか、手書きではなくコンピュータで処理することには抵抗ややり辛さはなく、むしろ、NEIS が導入される前まではなぜコンピュータで処理しないのか、疑問や葛藤を抱えていたのかもしれない。

②決済手続きの効率化について

A: NEIS が来る前は無駄にする時間も多かったです。例えば、決済システムみたいな場合もかなり NEIS が導入されてから簡素化されました。以前は決済みたいなのを待っていたら、直接書いて、校長先生を通して、教頭先生を通して、校長先生を通さなきゃいけないなら、会議中でいらっしやったり、外出をしていらっしやったり、ちょっと休憩に出られていたりしたら。

筆: ああ、時間が合わなかったら。

A: はい、ずっと待たなきゃいけないし、ずっと探さなきゃいけないし、最近みたいに補助の先生がいらっしゃるわけではないし。だから、決済ひとつをもらうためでも無駄にする時間かなり、ちょっと多かったです。そんなのが(NEIS では)ないから、かなり楽になりました。

このように決済手続きも NEIS によって楽になったことの一つであることが明らかとなったが、一方で、元校長である R.J 氏は NEIS によって教員とのコミュニケーションが減ったと感じているという。教員が決済手続きのために校長室を訪れることが NEIS 導入によってなくなり、決済手続きの間に行われる会話がなくなったことで、教員から児童の様子を窺い知ることが困難になったという。

また、2 重下線の部分にあるように、「補助の先生」が教員の業務軽減に果たした役割も大きいと考える。これまで、NEIS のような校務支援システムだけではなく、人材的なサポートによる教員の業務軽減も併せて行われてきたのである。

4-2. NEIS の弊害・問題点

現在は NEIS によって業務の効率化がある程度実現されているようだが、現在に至るまでの過程では弊害も発生している。校務分掌の中で NEIS を担当している教員は、NEIS が大きく変わった年、対応に追われて超過勤務となっていたのである。

B: 業務を一番多くしていたのは 2006 年度に、NEIS(担当)をしながら一度資料移管が行われた がありました。それは NEIS がプログラムが途中で一度変わったんです。それで、抜けている資料をお互いに遠くにある学校と転出があった学校の資料をコピーして、送って、私たちの抜けているものも受け取って、入力して、このような作業があった んですよ。その時、2006 年だったんですけど、その時が一番きつかったように思います。その時は本当に遅くまで仕事したし、長期休暇中も仕事したし。それが終わってから、2,3 回変わったように思います。それ以降に。その時が一番きつかったです。

このように、教員の業務軽減を目標の一つに掲げている NEIS が、2006 年当時に校務分掌で NEIS を担当していた教員を多忙にしていたということは注目に値する。その後も NEIS は更新され続けていて、またいつかこのように教員の多忙を招く可能性を孕んでいるからである。

さらにはこの、NEIS 担当教員の忙しさは NEIS のもととなっているシステムである SIMS(=CS)が運用されていた時代でも起こっていたことが明らかとなっている。

C: CS もそれで大変でした。すべての資料を打って入れて、移管して、そんな作業がありました。

筆：退勤時間がちょっと遅くなったり。

C：そうですね。長期休暇の時も(学校に)出てきて仕事したんですよ。その時は。

筆：何時ぐらいまででしたか？

C：そうですね、退勤はほとんど7、8時？7時ぐらいまででしたっけ？退勤した後2時間程度ではあるけど、とにかく、かなり長く、何か月間も、こうやってやったんです。毎日毎日ではないけど、資料を、例えば転校して行ったり来たりがあるじゃないですか。来たり行ったりしながら、NEISが出来た時、創始期へ入力をしなきゃいけないんだけど、欠けていた先生たちがいたんですよ。そうすると、それを全部またお互いに書類を送って入力してくださいと言ったり、無かったら無いということを綴っておかなきゃいけなかったんですよ。そんなことがある度にいつも、遅くまで残ってやったんですよ。

4-3. 業務軽減と逆行する教育プログラムの存在と多忙な学校現場

教育改革に伴う教育プログラムである、「放課後学校」についてはまだNEISで十分に管理できないため、担当している教員は比較的忙しいという実態があると、校務分掌で「放課後学校」を担当していたJ.S氏への聞き取り調査から明らかとなった。また、R.J元校長によると、放課後学校は教員が主体となって行う場合と学校が市に委託して行う場合があり、放課後学校を原因とする教員の忙しさは学校によって違うことも明らかとなっている。また、「放課後学校」に関してはNEIS上の問題だけではなく、休日出勤による教員の負担増大という問題も招いている。校務分掌で「放課後学校」の担当になった場合、週末も出勤して子ども達と一緒に過ごさなければならぬため、授業の準備やその他の業務を週末に行うことが出来ず、忙しいと感じるという声もJ.S氏より得られた。そのため「放課後学校」は、NEISのように業務軽減を目的とするものとは逆行する教育政策であると言える。

さらに、NEISの機能の中で使う範囲が学校ごとに違うため、児童生徒が進学する際に書類手続きで混乱を生む時があるとJ.S氏への聞き取り調査から明らかとなったが、一方でS初等学校の教員からは以下のような声も得られた。

B：ここでは書かない、書くが問題では無いように思います。時期的に同じことを全部入力することはします。でも、それを早くする学校があれば、遅くする学校もあるんでしょう。その入力をしないということではないんですよ。

A：もし、できていなくても、とにかく、NEISが導入された後は、NEISを通して、もう、インターネットですぐに、ファイルが行ったり来たりするようになったから、便利なんだけど、以前は私がそれを手で、NEISが導入される前は書類を受け取りました。子どもの書類を受け取りました。でも、何かが抜けていました。そしたらまた、もう一回要請しなきゃいけなかったんですよ。

筆：その時もそんな問題があったんですね。

A：そうです。いつもあります。そんな問題は、何かが抜けていたり、担任が記入をし

なきゃいけないのに記入が出来ていなかったり、そしたらまた、もう一回、その学校に追加で書類を送ってあげたりもして。私たちが追加で送ってあげたりもして。

(中略)

筆：とても忙しくて

A：ええ、ええ。そういう場合がたまにあります。担任たちは、そして11月12月ぐらいに、もう、生活記録簿を送るときは成績を入力を基本やって、送らなきゃいけないのに、まあ、抜けていたとか、以前にはそんなことがちょっとあったんですよ。

質：ああ、そうだったんですね。

以上のように、NEISの機能の中で使う範囲が学校ごとに違うということに関しては裏付けられなかったが、一方では忙しい学校現場の様子が垣間見えた。韓国語では、日本語の「忙しい」を表現する単語として「바쁘다(忙しい)」の他に「정신이 없다(精神が無い)」とも表現する。精神が無くなるほど忙しい状態を表す。ただ単に「忙しい」のではなく、「気持ちに余裕やゆとりが持てない」、「何がなんだか分からない」というニュアンスが含まれる。忙しさゆえに本来記入して他の学校に渡すべきものに、記入漏れがあるということはNEISというシステムが導入された後でも前でも関係なく起こっているのである。たとえNEISの機能の中で使う範囲が学校ごとに違うのではなく、時期が違うだけだとしても、このように記入漏れが発生するのは、つまり、忙しい学校現場の実態を示すものであると考える。実際に、校務分掌の長である教員の負担は一般の教員とは比にならない程忙しいという。

A：ええ、部署別に、業務別にリーダーをすることが出来る人がいらっしゃいます。そのような人たちは働く軽重がかなり違います。

B：今も夜の12時まで仕事をして、(中略)週末に仕事をしておっしゃるんですよ。

(中略)

B：NEISでできることは全体的なものでは無いんですよ。学校、しかも初等学校は生活指導も多くて、学習に関連したこともあるし、そうじゃないですか。NEISでできることはさっき先生がおっしゃった転出入と、成績とそれだけです。かなり少数、本当に半分程度だと言わなきゃいけないかな。担任の業務でも100%ではないんですよ。

このように、学校現場にはNEISのような校務支援システムだけでは解決できない業務と、忙しさが存在していることが垣間見えた。ただ、これまでの調査では校務分掌の長である教員に聞き取り調査を行うことが出来なかったため、校務分掌の長である教員の忙しさや勤務実態を正確に把握することは出来ていない。S初等学校の教員から得られた、一般教員にとってもNEISでできることは教員の業務の半分程度であるという意見も参考にしながら、校務分掌の長である教員にとってのNEISの効果や課題についても今後の調査で明らかにしていきたい。

おわりに

本稿の目的は、韓国における校務支援システムの変遷や、現在全国で運用されている校務支援システムである NEIS について明らかにするとともに、初等学校教員への聞き取り調査から教員の業務負担や校務支援システムの効果と課題及び限界を見出すことであった。

まず、韓国における校務支援システムの変遷に関しては、1997 年からその取り組みが SIMS というシステムによって始められており、2002 年に NEIS へと移行され、機能拡大を繰り返しながら現在に至っている。NEIS については、目的の一つとして「教員の業務軽減」や「教育行政業務の効率的な処理」が掲げられているため、本稿の冒頭の部分で取りあげたように、超過勤務という教員の勤務状況があったからこそ、それを改善するための取り組みとして始められたとみることができる。最後に、初等学校教員への聞き取り調査によっては次のことが明らかとなった。まず、NEIS の効果として成績処理の効率化や決済手続き等の効率化が達成されたということである。次に、SIMS、NEIS の弊害・課題として、校務分掌の SIMS、NEIS 担当者の負担と NEIS の「放課後学校」に関する機能の不足、そして多忙な学校現場の実態が明らかとなった。多忙であるが故のミスが忙しさを呼び、忙しさのスパイラルとなっているように感じた。その背景には「放課後学校」のような、教員の業務効率化と逆行する教育政策の存在や NEIS のようなシステムでは解決できない忙しさがあり、それが、特に校務分掌で「放課後学校」を担当する教員や、校務分掌の長である教員の忙しさとして現れているのである。

今後の課題としては、次の 3 点が挙げられる。まず、校務分掌の長である教員への聞き取り調査を行うことで、最も忙しいとされる教員の業務量は NEIS によってどのように変化したのかを明らかにすることである。これまで行ってきた聞き取り調査は一般教員や校長先生に対してであったが、校務分掌の長である教員から見た校務支援システム(NEIS)はどのようなものであるのか、効果や改善点は一般教員の見解とは違いがあるのか等を明らかにすることで、今後の NEIS や校務支援システムの在り方、さらには教員の業務の在り方についても提言できるようになると考える。2 つ目の課題は、先述したように、SIMS から NEIS に変わった背景を明らかにすること、3 つ目は 2015 年現在の NEIS の機能を明らかにすることである。NEIS に対する理解を深めるとともに、韓国の教育政策における SIMS や NEIS 等の校務支援システムの位置付けを明らかにしていきたい。

最後に、本稿で取りあげた現職教員への聞き取り調査を行なうにあたり、上記インタビューの先生方は勿論、ソウル大学留学中に指導を賜ったジン・ドンソプ教授や、ソウル大学校師範大学教育行政研修院のチェ・ホンサム先生より多くのご支援をいただいた。ここに感謝の意を表したい。

서울대학교 사범대학 진동섭 교수님, 서울대학교 교육행정연수원 최홍삼 선생님, 제가 서울대학교에 있을 동안에 많은 가르침과 도움을 주셔서 대단히 감사합니다. 그리고 개인 정보 보호의 관계상 여기서는 성함을 쓸 수 없습니다만, 인터뷰 조사에

협력해 주신 선생님들께 감사의 말씀을 드립니다.

【参考文献・注】

- ¹ KERIS ホームページ <http://www.keris.or.kr/>(2012 年 11 月 19 日付確認)
- ² 21 世紀型能力強化のための知能型オーダーメイド学習として、教育環境、教育内容、教育方法及び評価など、教育体制を革新することを目標とする。
- ³ 1 万余りの初・中・高等学校と特殊学校、178 の教育支援庁、17 の市・道教育庁及び教育部がすべての教育行政情報を電子的に連携処理し、国民の便宜増進を図るため、行政自治部(G4C)、最高裁判所等の関連機関の行政情報を利用する総合教育行政システム。
- ⁴ 1982 年 5 月 大韓教育総会「教員の勤務負担に関する分析的研究」
- ⁵ 「国際教員指導環境調査」(TALIS)
- ⁶ 「学校の第 3 者評価の評価手法等に関する調査研究 学校評価の実施及び学校情報の収集・整理等における ICT の活用方法に係る調査研究報告書」、社団法人日本教育工学振興会、2010 年 3 月
- ⁷ 「学校改善を支援する教育情報システムの検討—韓国 NEIS と国内先進地域の調査結果を踏まえた提言—」、日本教育情報学会 第 26 回年会(2010)、 pp.58-61
- ⁸ 韓国大手論文サイト(RISS)で「NEIS」と検索をかけた結果、学術誌論文は約 120 本ヒットしたが、その内 31 本が論文タイトルから NEIS のシステム上の問題や個人情報保護の問題を扱ったものであるということが判別できた。
- ⁹ イ・ミョンソプ(2003)「初等学校校務業務システム活用と業務遂行満足に関する研究」、ユン・ミラ(2008)「NEIS 校務業務システム活用に伴う教員の業務の効率性分析」韓国情報教育学会、2007 年度夏季学術大会、pp.346-351
- ¹⁰ キム・ジョンギョム(2012)「初等学校教員の国家教育行政情報システムの使用経験」韓国産学技術学会論文誌、第 13 巻第 9 号、pp.3943-3951
- ¹¹ 教育政策学生と保護者の要求と選択を反映して受益者負担または財政支援によって行われる正規授業以外の教育及びトルボム(「面倒を見る」の意。)活動で、学校計画に沿って一定の期間の間持続的に運営する学校教育活動。「未来社会に備えた創意人材育成」をビジョンとし、私教育費の軽減、教育格差の緩和、トルボムサービスの提供、地域社会学校の実現を目的とする。
ソウル特別市教育庁ホームページ
<http://afterschool.sen.go.kr/icedu/about/aboutSub01.do> (2015 年 8 月 23 日付確認)
- ¹² KERIS ホームページ http://www.neis.go.kr/pas_mms_nv88_001.do (2015 年 6 月 9 日付確認)
- ¹³ イ・キョンジェら(2001)「学校総合情報管理システム改善方案」韓国コンピュータ産業教育学会論文誌 2001.4, Vol.2, No.4, pp.573-586 によると、中・高等学では 4,251 校、初等学校では 5,689 校で導入されていたという。
- ¹⁴ 社団法人日本教育工学振興会(2010) 同上、
- ¹⁵ KERIS ホームページ 同上
- ¹⁶ 社団法人日本教育工学振興会(2010) 同上、p.45-48

Study on School Affairs Support System in Korea: Based on the Interviews with S Primary School Teachers

Mami MATSUMOTO

Efforts on school affairs support system in Korea which was developed by ‘Korea Education and Research Information Service’ (Below, KERIS) was established in April 1999. In 2002, the previous affairs support system ‘School Information Management System’ (Below, SIMS) has been upgraded to ‘National Education Information System’ (Below, NEIS). And after 2006 it was utilized in all of the Korean primary schools, junior schools and high schools.

This paper aims to reveal the history of the Affairs support system, ‘NEIS’ in Korea. It also aims to analyze the work burden of Korean teachers, ‘NEIS’ effects, problems and limitations of school affairs support system, based on the interviews with primary school teachers. This study interviewed with five teachers and mainly asked the following questions: ‘the busyness of school affairs’ , ‘the effect and problems of SIMS and NEIS’ and ‘other support system’ . Furthermore, this study focused on analyzing the verbatim record of the interview results from J.U and H.J, who works at S elementary school as a teacher.

According to the results of the interviews, I had three points of view about ‘positive opinion about the NEIS’ , ‘evils and problems of NEIS’ and ‘The presence of education programs to reverse the business mitigation and busy school field’ . First, about ‘ positive opinion about the NEIS’ , S elementary school teachers mentioned that ‘scores processing’ and ‘settlement procedure’ . It seems that the efficiency of business has been to some extent realized by NEIS, but up to present, there has also been some ‘evils’ occurring. Moreover, H.J, who is in charge of NEIS in school affairs division of duties said that ‘In 2006, NEIS program changed and had to transfer documents,that was forced to do overtime work and holiday work’ . Lastly, not even today NEIS has not covered 100% of the teachers business, and in particular, teachers as the leader of school affairs division of duties often have to work until 12 p.m. and they also work during holidays. ‘Busy realities of such schools’ was revealed through this study.